



学会発表の募集

尺八シンポジウム 2018

英国、ロンドン大学、SOAS

日付：2018年7月30日

発表要旨提出期限：2018年3月16日

参加費：30ポンド（ティーとランチ付）

尺八シンポジウム 2018 実行委員会は現在、英国ロンドンで7月30日に開催されるシンポジウムの発表者を募っています。

幅広い学問分野、例えば民族音楽学、パフォーマンス研究、人類学、美術史、社会学、日本研究、音響学、歴史学などあらゆる分野からの発表を募集しています。この広いアプローチが、尺八を吹く人々、楽器、音楽の研究に新しい視野を広げる機会になることを願っています。

同じくロンドンで、2日後に行われるワールド尺八フェスティバルと共に、このシンポジウムは、尺八の研究に関する幅広いテーマによって知的交流に刺激的な効果をもたらすことが期待されます。

尺八は中国の唐時代に遡る興味深い歴史を持っています。当時は宮廷音楽の楽器でもあり、朝鮮を経て日本に伝来し、雅楽でも使用されましたが、10世紀になると雅楽の楽器から外されました。その後尺八は多岐に広がり、数世紀にわたって尺八の製管方法も改正され、18世紀に臨済宗の普化宗派の虚無僧の修行的トレーニングのために使われた法器になりました。

尺八の歴史を研究する専門家は、これらの時代の諸相、例えば普化宗の制度、虚無僧の生活等を明らかにしています。しかし、調査されて分析されるべき課題がまだ多く残されています。普化宗の僧侶達と尺八の演奏は、ある種の神秘性を醸し出しており、虚無僧の顔を完全に覆う独特の天蓋姿は絵にも描かれ、歌舞伎にも登場し、歌舞伎役者特有のも描写に繋がりました。これは一例ですが、尺八の研究はまだ興味深い様々なテーマを残しています。

現代、尺八は太鼓と並んで注目され、世界的に大きな成功を収めている日本の楽器です。尺八は、例えば、アメリカ西海岸や南米に移住した日本人が演じる楽器としてだけでなく、1960年代から日本と世界の音楽文化交流の魅力的な楽器の一つになりました。日本以外でのフェスティバルやワークショップで数百人の尺八の愛好家が集まるようになり、現代音楽の作曲家にも注目され、地理的・歴史的・文化的境界線を越える楽器となりました。

尺八の音楽がどのように解釈され、他の音楽のジャンルや文化とどのような関わりを持ち、将来的にどのような新たな創造活動に展開していくか期待されます。

基調講演者：

第1回尺八シンポジウム2018では二人の基調講演者を招待しています。



大阪芸術大学教授、志村 哲（禅保）

タイトル：「尺八は進化していますか？現代の尺八世界における2つの尺八の魂と4つの異なる尺八の道」



ロンドン大学 SOAS 音楽学科元専攻長 デイヴィッド・W・ヒューズ

タイトル：「私の個人的な尺八から民謡の世界への旅」

シンポジウム発表に関するお知らせ：

募集要項

発表テーマ：尺八に関連するあらゆる課題。

発表時間：20分。質問10分。

発表テーマとして以下に例を挙げますが、他の課題でも可能です。

- ・尺八と虚無僧の歴史
- ・尺八の流派と一門
- ・歴史文書に見る尺八
- ・歌舞伎浮世絵に見る尺八
- ・文化や国を越えた今日社会をつなぐ手段としての尺八
- ・尺八と性別ジェンダー
- ・作曲と演奏における尺八
- ・尺八、その独自性、過去のとらえ方と価値
- ・楽器としての尺八とその作製
- ・尺八と場所：地方による違い
- ・尺八、国際化とグローバル化
- ・虚無僧とその修行
- ・映画音楽の中の尺八

申し込み手続

1. 略歴：200字程度（メールアドレス必須）

2. 論文要旨の提出

期限：2018年3月16日金曜日

文字数：600—700字

言語：原則英語ですか、日本語も可

送り先・連絡先：symposium@wsf2018.com

採用結果：2018年4月下旬にメールで送付します

参加費30ポンドの支払はシンポジウムの前に宜しくお願いいたします。



尺八シンポジウムの参加登録と支払いの詳細については、symposium@wsf2018.com までお問い合わせください。

主要論文は発表者の了承を得て、シンポジウム報告書（仮題）に掲載させていただきます。

シンポジウム実行委員会：
ヨーロッパ尺八協会会長 Kiku Day
実行委員 Gunnar Jinmei Linder

シンポジウム組織委員会：
ヨーロッパ尺八協会
ジャパン・リサーチ・センター
SOAS 音楽学部



尺八シンポジウムの二日後、第7回 ワールド・尺八・フェスティバル

European Shakuhachi Society / ヨーロッパ尺八協会



Design: Thorsten Knaub